

日本学術会議会長談話
「令和8年熊本地震について」

本年7月28日に発生した地震により被害に遭われた多くの皆様に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。いまだ余震が続く中、厳しい暑さや今後の降雨が重なることで、健康リスクや被害の拡大が懸念されます。被災された皆様はもちろんのこと、救援活動や復旧・復興支援に尽力されている方々におかれましても、熱中症などへの十分な備えと健康管理に留意されますことを願っております。被災された皆様の安全が確保され、一日も早く平常の生活に戻ることができるよう祈念しております。

日本学術会議においては、これまで、地震・津波などの災害への対応や復旧・復興の方策について、多様な知見を取り込みつつ対応策を提示して参りました。昨年は能登半島地震や水害からの復興をテーマに開催した「日本学術会議 in 石川」の議論も踏まえ、報告「災害対応と復興政策のための社会的モニタリングと復興アーカイブの実質化を目指して」^(※1)、見解「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」^(※2)を取りまとめるとともに、本年にも提言「壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」^(※3)を発表しています。関係の機関におかれましては、これらの報告、見解、提言が参考になればと存じます。本会では引き続き、防災減災に関するあらゆる分野の知を結集し、災害からの復旧・復興に貢献していく所存です。

令和8年7月30日
日本学術会議会長 光石 衛

参考

(※1) 報告「災害対応と復興政策のための社会的モニタリングと復興アーカイブの実質化を目指して」(令和7年11月12日)

本文：<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-26-h251112.pdf>

要旨：<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-26-h251112-abstract.pdf>

(※2) 見解「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」(令和7年11月27日)

本文：<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf2/kohyo-26-k251127.pdf>

要旨：<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf2/kohyo-26-k251127-abstract.pdf>

(※3) 提言「壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」(令和8年4月10日)

本文：<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf2/kohyo-26-t399.pdf>

要旨：<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf2/kohyo-26-t399-abstract.pdf>